

2016 年度 小委員会活動成果報告

(2017 年 1 月 25 日作成)

小委員会名	環境振動性能評価小委員会	主 査 名：松本 泰尚 就任年月：2015 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境振動運営委員会)	委員長名：羽山 広文 主 査 名：国松 直
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2017 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境振動にかかわる最新の研究，および実務の動向に関する情報収集や，国際規格にかかわる審議などを行う。 ・ 環境振動性能評価の現状や問題点の把握，および課題の抽出を行い，今後の環境振動性能評価のあり方を模索するとともに，環境振動に関する性能評価手法の学会会員への普及を図る。 年度によらない継続的活動： <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境振動評価に係る最新の研究，および実務の動向に関する情報収集を行う ・ 国際規格に係る情報収集と審議を行う 初年度： <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境振動分野で扱う対象の拡大に関して検討する ・ 評価指針改定後の環境振動評価の展開を検討する 2 年度： <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境振動分野で扱う対象の拡大に関する検討結果をまとめる ・ 評価指針改定後の環境振動評価の展開に関する提言をまとめる 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無 主査：松本泰尚 (埼玉大学) 幹事：新藤智 (法政大学) 委員：石川孝重 (日本女子大学)，石川理都子 (大林組)，植松武是 (林産試験場)，内田季延 (飛島建設)，川久保政茂 (円石コンサルタント)，国松直 (産業技術総合研究所)，鈴木雅靖 (鹿島建設)，濱本卓司 (東京都市大学)，久木章江 (文化学園大学)，益田勲 (日本交通技術)，森下真行 (前田建設工業)，横山裕 (東京工業大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	無し	
2016 年度予算	70,000 円	ホームページ公開の有無： 有 (運営委員会 HP の一部) 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s17/AIJ_EVindex.html

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	1. 無し
講習会	1. 無し
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	1. 無し
大会研究集会	1. 無し
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	1. 無し
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 最新研究，実務の動向に関する情報収集に関連し，国内外の研究論文等に関する情報共有を行った 2. 性能評価の現状や問題点の把握と課題抽出，今後の性能評価のあり方の模索に関連し，将来的な居住性能評価指針の改定の方向性や環境振動の説明性に関する検討を行った 3. 将来的な居住性能評価指針の改定に関連し，振動実験を実施した
委員会活動の問題点 ・ 課題	特に無し

2016 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>今年度は4回の小委員会開催を予定していたが、そのうち1回を振動実験の実施とした。目標は概ね達成できたので、総合評価をAとした。</p> <p>評価にあたって考慮した今年度の具体的な活動内容を、設置目的および活動計画と関連させて、以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境振動にかかわる最新の研究、および実務の動向に関する情報収集 <ul style="list-style-type: none"> → 最近の国内外の学術論文等に関する情報共有を行った。環境振動は、構造など環境工学以外の分野での発表にも関連するものがあり、各委員が広く情報収集することにより、有益な情報を収集・共有することができた ・環境振動性能評価の現状や問題点の把握、および課題の抽出と、今後の環境振動性能評価のあり方の模索 <ul style="list-style-type: none"> → 居住性能評価指針改定小委員会および性能評価法検討WGで進んでいる指針改定に関する検討に協力した → 将来的な居住性能評価指針の改定の方向性について検討した → 環境振動の説明性についてWTを組織して集中的に検討した → 将来的な居住性能評価指針の改定に関連し、基礎的なデータを得るための振動実験を実施した ・環境振動に関する性能評価手法の学会会員への普及 <ul style="list-style-type: none"> → 居住性能評価指針改定小委員会あるいは性能評価法検討WGの委員でもある当小委員会の委員が、本年度の大会PDおよび第35回環境シンポジウムにおいて、現在検討中の性能評価指針の改定に関連する講演を行った 			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。